

# 総力戦体制と

## 障害児保育論の形成

日本障害児保育史研究序説 河合隆平著

〔金沢大学准教授〕

● A5判・上製 三二六頁

● 定価 〔本体七、〇〇〇円+税  
ISBN978-89774-542-8 03037 \*7000E

内容  
〔抜粋〕

第一部 戦間期から総力戦体制期への移行と保育困難児・障害児問題への着目  
第一章 戦間期における保育困難児問題と民間保育運動の成立

第二節 保育事業成立期の保育要求と保育困難児問題

第三節 東京帝国大学セツルメント託児部と保育困難児問題

第四節 児童問題研究会と科学的保育研究の萌芽

第二章 児童政策の拡充と保育困難児問題の認識

第一節 母性保護問題と都市中間層の育児問題

第三節 大阪市の児童保護問題と児童相談事業の展開

第四節 国民幼稚園構想における保育困難児問題

第五節 乳児死亡問題と保育困難児問題

第二部 保育問題研究会の保育困難児研究と国民保育論

第三章 保育問題研究会における保育困難児研究の展開

第一節 保育問題研究会の結成

第四節 第三部会と保育困難児研究

第四章 国民保育論における保育困難児・障害児問題の位置

第一節 城戸の心理学研究と発達論の形成

第二節 国民保育制度の創出

第三節 三木安正の知的障害心理学と幼児保育論

第四節 障害児保育の目的と特殊幼稚園

第五節 障害児保育の統合

第六節 恩賜財団愛育会における愛育事業と困難児問題

第七節 恩賜財団愛育会の愛育事業の展開と障害児保育実践の誕生

第八節 特別保育室における保育実践の展開

第九節 小溝キヨ「異常児保育」—保育記録にみる障害児保育実践の誕生

第十節 保育実践の倫理と規範

第十一節 「異常児」をめぐる育児の心性

第十二節 愛育研究所「特別保育室」と障害児保育実践の課題

第十三節 「異常児」をめぐる育児の心性

第十四節 戦後初期の障害児保育問題と障害児保育の課題

第十五節 本研究の総括と今後の課題